

処理水の海洋放出阻止を

崎

福島原発巡り市民団体集い

長

2022.3.8
長崎

東京電力福島第1原発 事故から11年を前に、長崎の被爆者らでつくる市民団体「福島と長崎をむすぶ会」などは6日、長崎市内で原発処理水の海洋放出に反対する集い「フクシマの今を考える」を開いた。脱原発福島県民会議の佐藤龍彦事務局長は「海洋放出を断固阻止するよう世論をつくりたい」と訴えた。

汚染水について、政府は昨年4月、多核種除去設備（ALPS）で浄化処理した上で海洋放出する方針を決めた。東電は来年春ごろから実施する計画。処理水には、除去が難しい放射性物質トリチウムが残っていると集いは真被爆二世の会との共催。ビデオ会議システム「Zoom（ズーム）」で参加した佐藤さんは「多くの人が反対する中で方針が決められた」と批判。署名活動や集会開催などを通じて反対世論を盛り上げていく考えを示した。

チェルノブイリ原発事故の被災地で支援を続ける医師の振津かつみさんもズームで、政府と東電が漁業者らとの約束を反故にしたと指摘。「汚染水の問題を許せば、被爆者にさらに犠牲を押しつける事故処理が進んでいく」と述べた。

むすぶ会の阪口博子共同代表は「私たちにできることは署名を集めること。『海洋放出するな』という世論を広めたい」と話した。（副島宏城）



原発処理水の海洋放出について考えた集い―長崎市茂里町、県総合福祉センター